巻 頭 言

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり，謹んで新春のお慶びを申し上げます。色材協会の会員の皆様方のご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

2022年を振り返りますと，われわれの生活に大きなインパクトを与えるでき事が多かったように思います。とくに衝撃的であったのは，今なお続くロシアによるウクライナへの軍事侵攻ではないでしょうか。わが国において先の戦争の記憶が年月とともに風化しつつある中，2022年2月24日にロシアによるウクライナへの侵攻が開始され，独立国家間の大規模な武力衝突によって多くの人々の命が失われました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。紛争の長期化は当事国の人々の平和を奪うのみならず国際情勢の不安定化を引き起こしており，わが国においてもエネルギー安全保障への懸念やインフレの加速といったかたちで少なからず影響が出てきております。とくにエネルギー供給に係る諸問題は，資源輸入国である我が国の産業活動に直接的な影響を与えおり，産学官が連携して喫緊に取り組むべき課題ではないかと思います。色材協会では，色材関連分野を基軸としながら，省エネルギー技術や新エネルギーの開発，さらにはそれと並行したカーボンニュートラルの実現に係る情報収集・交換の場を提供し，人類の持続的な発展に貢献できればと考えております。

もう一つの大きな関心事としては，新型コロナウイルスの感染にかかる問題でしょう。2022年，わが国では第6波，第7波を経験し，今なお第8波に直面している状態です。このように変異を繰り返しながら新型コロナウイルスは猛威をふるい続けていますが，一方で，政府の方針としてウイズ・コロナに舵を切り，過去の経験を踏まえて行動制限を最小限にとどめることで，コロナ前の日常が徐々に取り戻されつつあります。水際対策も第7波以降から大幅に緩和され，海外渡航者や海外からの訪問者も増加傾向にあります。ワールドカップサッカー・カタール大会を見ておりましても，世界中の人々が自由にコミュニケーションをとれることの素晴らしさを改めて認識した次第です。2023年は，国内での交流はもちろんのこと，国際的なコミュニケーションがいっそう活発化することを祈ってやみません。

そのような中，色材協会は昨年，お蔭様で創立95周年を迎え，2022年10月25日（火）・26日（水）の2日間，東京・アルカディア市ヶ谷にて記念会議を対面で開催いたしました（一部の来日できない招待講演者はオンラインで参加）。新型コロナ禍以降の研究発表会としては初めての対面開催でしたので，実行委員一同，開催前は非常に神経をすり減らしましたが，参加者の皆様のご協力のお蔭で，1日目の国際セッション，2日目の国内セッションともに大きなトラブルもなく無事盛会のうちに閉会することができました。参加者総数は177名を数え，水際対策の緩和もあって，お蔭様で海外から，基調講演，Key note講演，招待講演を合わせて9名の外国人研究者に参加していただきました。2日間の口頭発表とポスター発表を通して熱のこもった議論が展開され，次世代に向けた色材ならびに関連技術にかかる情報交換が活発に行われました。次回の周年記念会議は100周年（2027年）に実施する予定ですが，今回以上に充実した行事となることを願っております。

2023年度の本部・各支部の主催行事，部会・研究会の諸活動については，新型コロナウイルス感染状況を注視しながら精力的に活動する予定です。色材研究発表会については，関西支部の企画・運営で2023年11月7日（火），8日（水）の両日に大阪大学コンベンションセンター（吹田キャンパス内）で対面にて開催することを予定しています。会員の皆様には是非とも奮ってご参加いただき，色材ならびに関連技術に関する日頃の研究成果をご発表いただきますようよろしくお願い申し上げます。また，行事の運営に関してですが，新型コロナ禍の影響で近年，コミュニケーションのデジタル化が急速に進みました。新しい生活様式の推奨にともなって働き方のスタイルも変化し，ICTの活用が不可欠となってきました。色材協会としましても，このような状況に柔軟に対応できるように検討を重ねていきたいと思います。

最後に，2023年は色材協会100周年に向けての第1歩目の年であります。会員の皆様にご満足いただける永続的な協会運営を目指すとともに，色材関連分野，ひいては会員の皆様のますますのご発展に貢献できる協会活動を心がける所存であります。なにとぞご指導ご鞭撻のほど，よろしくお願い申し上げます。

一般社団法人色材協会
会長　八木繁幸